

Rotary



# 白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

2023～2024年度クラブ目標

創立1986年

『みんなが楽しい ロータリー』



会長 佐藤幸彦  
幹事 村上堅二



世界に希望を生み出そう

2023～24年度国際ロータリーテーマ

## 第1791回例会

令和6年2月1日(12:30～13:30)

○ソング

- 君が代 奉仕の理想

○スマイルBOX

- 佐藤幸彦会長（蔵王でのスキー交流会、参加された皆様、お疲れ様でした。国際奉仕委員会 諸橋委員長、例会ありがとうございました。）
- 宮本多可夫会員（諸橋会員、卓話ありがとうございました。）
- 金田昇会員（先週は2800地区の皆様と蔵王スキー交流会に参加して楽しく交流してきました。）
- 永野文雄会員（国際奉仕委員会の諸橋委員長様、例会担当ありがとうございました。2月はまだまだ寒いです。元気にすごしましょう。）
- 西山よしえ会員（今年初参加となり、遅れましたがご挨拶させていただきます。今年もどうぞご指導よろしくお祈りいたします。お祝いもありがとうございました。）
- 湊洋子会員（遅れましたが、本年もよろしくお祈りいたします。誕生日プレゼントありがとうございました。）
- 前原俊治会員（遅くなりましたが、1月3日は結婚記念日でした。プレゼントありがとうございました。）
- 須藤正樹会員（先月は、お誕生日祝いありがとうございました。先は長いので頑張ります。）



1月27・28日  
スキー交流会（蔵王スキー場）

### ▶第1791回例会出席状況 (R6年2月1日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	55名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	69名
Ⓒ ①の出席者数	30名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓕ ②の出席者数	9名
Ⓖ = Ⓒ + Ⓔ + Ⓕ (メイクアップ補填後の出席会員数)	39名
Ⓗ = Ⓓ - (Ⓑ - Ⓕ)	64
Ⓘ = Ⓖ / Ⓗ × 100 (例会出席率)	60.9%

### 【今週の仮メイクアップ会員】

- 1月26日 白河青年会議所2024年度新年会  
佐藤幸彦、村上堅二

▶例会日：第1・第3木曜日(12:30) その他の木曜日(18:30～19:30)

▶例会場：白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局：〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

## 本日のプログラム

### ■会長の時間

佐藤幸彦会長



皆さん、こんにちは。今日は2月1日ということで、能登半島地震よりちょうど1か月になりました。死者数が昨日時点で238名、安否不明が19名ということで、いまだに道路をはじめライフライン水道電気がつかない地域が多数あると聞いております。私たちも13年前の東日本大震災を経験しているの、本当に心が痛む思いで早い復興を願っております。震災はいつ起こるかわかりません。そのための準備は皆さん大丈夫でしょうか。私が一番必要だと思うのは水だと思っております。電気道路ももちろん重要なんです、水があれば孤立しても何とか生き延びられるのかなと考えております。私井戸を4カ所を所有しております。自宅と会社と倉庫とまた保健所前、13年前の震災前に掘った井戸が2本ありまして、当時13年前、自宅周辺丸の内というんですが、それに水がずっと2週間ほど止まったんです。その時、家は井戸だったために、地元はもちろん結構水とか使っていたので、近所の方も使っていたという形でどんどん開放してあげて非常に喜ばれた記憶がございます。最後に掘った4本目の井戸が保健所前にあるんですが、保健所の目の前に井戸3年前掘りまして看板を立てまして、非常時災害用井戸水という看板を立てまして、災害時にはどなたでもご自由にお使くださいという看板を立てております。また、その後災害はないので使われた実績がないんですが、近所の人たちはちょこちょこ使っているようでございます。どうぞ皆さん、自由に使ってくださいと書いてありますので、一番近い宮本さん。いつでも使って結構でございます。電気がなかったらどうするのという質問を受けたんですが、電気がなかった場合にハイブリッドカーでコンセント付きの車とかもしくはEV車。また発電機があれば水は出ますので、井戸水が枯れないように、そういった準備をしております。備えあれば憂いなし皆さんも常日頃より準備等をしていければよろしいのかなと思っております。

さて、ロータリーでございますが、先週の27・28日、私と村上幹事、金田会員と白河ロータリークラブの斎藤会員と私の家内、合計6名で蔵王に行ってきました。土曜日、日曜日とガスはかかっていたのですが、恒例の三五郎小屋というレストランがあるんですが、そこで食事。また蔵王山頂でのお地藏様での写真を恒例で撮ってまいりました。ワールドカップのスキージャンプ大会が2週間ほど前にあったんですが、そのジ

ャンプ台を見学したり、全てのコースを結構滑ってまいりました。宿泊はヴァルトベルクというところで泊まったんですが、天童ロータリー・米沢ロータリー・おしょうしなロータリー・新庄ロータリー等々24名の参加をいただきまして、中でも第2800地区の芳賀ガバナークラブも参加しております。ちょうどその夜1月27日はポールハリスの命日だったそうでございまして、皆さんで黙祷をささげた。後に乾杯をして楽しい懇親会をしてまいりました。その後、芳賀ガバナークラブより国際会議、今回はフロリダに行ってきたそうでございます。金田会員の場合は、国際会議はどこになるのかわかりませんが、今回は七泊八日程度で行ってきたそうでございます。心してよろしくお願ひしたいと思います。さて、1月26日は青年会議所の新年会に行きまして。村上幹事も行きました。この中でもOBの方は参加された方がいるかと思いますが、白河・白河南ロータリー、ライオンズクラブ等々の各メンバーが揃ってございまして、楽しい素晴らしい新年会でした。本日は国際奉仕の諸橋委員長による担当例会ということで、ランドセルを海外に贈るといことで期待しておりますので、よろしくお願ひいたします。以上挨拶とさせていただきます。

### ■幹事報告

村上堅二幹事

- ガバナークラブ 早川敬介、次期地区幹事 佐藤和夫：会長エレクト研修セミナー（PETS）のお知らせ
- 日本事務局 業務推進室：平和構築と紛争予防月間リソースのご案内

### ○親睦活動委員会

吉成真五郎委員長

#### 【誕生日】

佐藤清作会員、渡部則也会員、齋藤孝弘会員、青木大会員、西山よしえ会員

#### 【結婚記念日】

山口治会員、鈴木典雄会員、吉成茂会員



## ■委員会報告

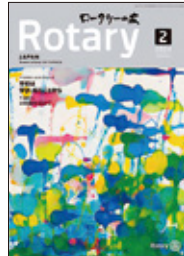
### ○雑誌広報委員会

沼田重一副委員長



ロータリーの友の見所をご案内します。まずは横書きの21ページですね。その中でロータリーで行動変容という欄がございます。内容を読んでいただくといいと思っております。福島ロー

タリー・右近八郎ガバナーの記事となっております。それから37ページ。第2530地区の地区大会の記事が載っておりますので、この辺ちょっと注目して見ていただければありがたいと思います。以上です。



## ■本日のプログラム

### 国際奉仕担当例会

#### ○国際奉仕委員会

諸橋和典委員長



皆さん、こんにちは、国際奉仕委員会委員長の諸橋です。本日はお世話になります。御存じのように国際奉仕委員会では、2020年からランドセルを海外に贈ろうという計画を立てておりま

して、当初ミャンマーを予定していたんですけども、国際情勢とかそういった関連もあって、なかなか送り先が決まらない状況だったんですが、当時上杉謙太郎代議士のお世話で国際協力NGOのジョイセフを通じて、アフガニスタンにランドセルを贈るという事業となりましたところ、青木委員長のときの2022年には約350個、昨年度私が委員長のときに2023年度には約200個のランドセルをジョイセフを通してアフガニスタンに送りました。これは各小中学校から集めたランドセルということで、子どもたちもから国際貢献に多少なりともかかわっているというところ、それと大切なランドセルが海外で使われているということがとてもうれしいようで、とても好評な事業ではあります。ただし、どうしても経費がかかることがありまして、1個あたり1,800円の送金というのがかかります。円安の影響とか、いろいろ物価高の影響もあって、今年の6月30日以降2,500円という金額に上ります。なので、たくさん集まってしまうと、なかなか経費的に大変だなというところもあります。なので、ランドセル

を持ってきてくれた方に何か協賛金をいただくとか、そういった方法もあるとは考えてはいるんですけども、今日ジョイセフの栗林さんにズームを通して説明をいただいて、皆さんどういった考えになるかという、ぜひこれはお金をかけてもやってみようということになるのか。ちょっと別な考えになるのかというところで話を聞いていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。こういうハイブリッド形式で卓話をいただくのは今回が初めてなので、ちょっとトラブルが発生するかもしれませんけれども、よろしくお願いいたします。それでは栗林さんお願いいたします。

#### ○公益財団法人ジョイセフ

栗林桃乃様



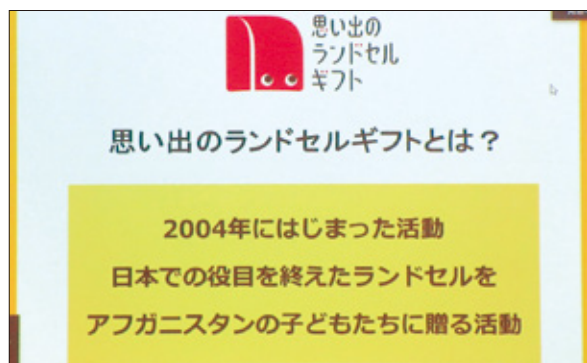
この場を借りて私どもの活動を紹介します。公益財団法人ジョイセフの栗林と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私ども、本

当にいろんな課題に取り組まれているNGOの中でも、これまでの日本の母子保険のノウハウを生かして世界で主に女性や少女たち、子供たちの命と健康を守るために活動をしている、日本生まれの団体です。昨年創立55周年を迎えまして、これまでに



40カ国を超える国々で地域に密着した形で活動を続けてまいりました。今回の石川県での地震についてお話がありましたが、国内でも支援をしております。お母さんたち子供たち女性たちが健康に暮らすためにというところで、一人ひとりの体の選択肢、心の選択肢というのを広める啓発活動を日本で行っているのと、先日の地震におきましては石川県の助産師会等ですね。日々ネットワークがございまして、そこからの要請で金沢市内に、現在福祉避難所というのがあるんですけども、そちらに新生児ですとか、乳幼児を持つご家族が身を寄せていらっしゃるって、そこでお風呂に入れないという状況になったときの肌着ですとかを、地域

のニーズにより高いということで要請を受けて、ジョイセフの日ごろのネットワークを通じて企業さんにご協力いただいて物資を届けるという橋渡し役を担ったりしております。今回アフガニスタンの活動を紹介させていただきますが、政府の方針としては本当に日本国内のいろんな災害ですとか、いろんなことがあって、特に今能登半島は大変な状況にありますけれども、そういった国内でのニーズに対してもできることを一つ一つやりつつ、ジョイセフはやはり事業の大半が海外での事業になりまして、そういった海外での事業支援のニーズというのがここでおさまるかということではありませんので、目の前の支援のニーズが高い国の人々を、取りこぼすことのないように活動を続けていくという方針で、今回のアフガニスタンでの思い出のランドセルギフトを今年も継続して実施してまいります。今回、長年活動の協力いただいております



ので、ご存知の方が多くかと思っておりますけれども、改めて私どもは2004年から日本で役目を終えたランドセルを、アフガニスタンの子どもたちに贈る活動を実施しております。この活動は、中学校や小学校の国語の教科書、英語の教科書などにも一部紹介をさせていただいております。昨年の春にはこの右側の国語の4年



生の教科書で、ランドセルをアフガニスタンに贈っているという活動について学んだ子どもたちが、初めて卒業したという年になりました。昨年初めてのそういう形だったので、今年はより強い関心を持

ってくださっている卒業生の方がいらっしゃるのではないかと、ちょっと楽しみにしているところでございます。2004年から始めて今年20周年を迎えます。これまでに贈ってきたランドセルは27万個を超えました。昨今、やはりSDGsの話題というのがあるんですけれども、この活動においては3番「全ての人に健康と福祉を」、5番「ジェンダー平等を実現しよう」を、女の子・男の子も同じく学ぶ権利を持って一緒に学校に行こうというところ、そして17番の「パートナーシップで目標を達成しよう」。皆様との連携をとって、貢献ができる活動と考えております。この活動をしてい



るアフガニスタンですが、アジアとヨーロッパの間にある国ということで、この辺報道などでもご覧になったことがある方が多いとは思っています。この国の中で、私どもはパキスタンの国境にあるナンガハール州という地域に活動拠点を置いておりまして、昨年の10月に発生いたしましたアフガニスタンの地震の影響はなかったようになっておりますので、ランドセルの配布も継続して実施することができております。パキスタン国境のエリアということで、長年テロ活動や紛争が多かった危険な地域がありまして、今も学校に戻ることができていない子どもたちが多くいます。



そして昨年、約200個のランドセルをご寄贈いただきました。そのランドセルですが、合計1万2606個の数出荷することができまして、このうちの約200個ということで、大変大きな貢献をいただいております。そ

して、学校44校に配布いたしました。この44校なんですけれども、学校も小さいところ、大きいところも結構あるんですけれども、小さい方ですと200個400個という単位で配りますので、皆様から寄贈頂いたランドセルが1校分の児童数を担っていると申し上げても過言ではないかなと思っております。エリアとしては私どもがナンガハール州という地域の中の星がついている、ジャララバードというところに拠点を置いているんですが、それよりもさらにパキスタンに寄ったとこ

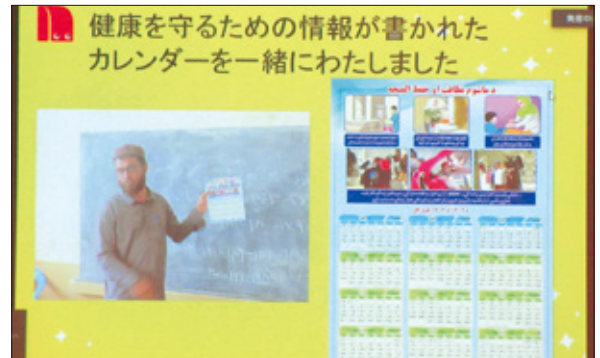


ろにトラックで各小学校に輸送して配ってまいりました。活動期間の2か月ほどかかったんですけれども、1万2606個を配布することができております。配布する際は、このようにランドセルの使い方を配布スタッフが説明しまして、日本でどのように集められてどのように送られてきたのかという背景も丁寧に説明しております。子どもたちは、ランドセルの文化が元々ない国ですので、これが通学用カバンであるということ、子供向けのものであるということ、大人も子供もしっかり伝えて使ってもらっているんですけれども、上下逆さまに背負ったりですとか、やはり使い方がわからない子がいますので、この辺かなり丁寧に説明しております。また、先ほども私の方で申し上げましたと



おり、保健の分野が専門の団体でございますので、やはり健康というところの啓発活動も同時に行っております。これは日本の小学校もそうだと思いますんですけれども、先生が手紙を配りますと、ランドセルに子供

たちが詰めて、家族の元、お家に持ち帰ると思うんですけれども、アフガニスタンでもそのルートを活用しまして、ランドセルを媒介として、こういった保険に関する情報が書かれたカレンダーと一緒に開封して、子供たちだけではなくて、家族にも健康を守るための情報が届くように工夫をしております。このように、



本当に近年、色とりどりのランドセルが集まるようになりましたので、男の子にも女の子にもどの色でも人気なので、男の子向け女の子向けというものもあえて仕分けずに配っております。こちらは動画になっておりますが、子供達は本当に大興奮で、中に一緒にご寄付いただいた学用品を広げて、子供が見せ合う姿があっ



たりします。この後、子供たちは、日本の子供たちもいいものをもったり、プレゼントもったりすると、やっぱり大好きな人に見せに行きたいというモチベーションがあると思うんですが、アフガニスタンの子供たちも一緒に、その日は走って家まで帰っていち早くお父さんとお母さんとおじいちゃん、おばあちゃ



んに見せようと笑顔で帰っている姿というのが現地から報告されております。このような形で配布しております。先ほど諸橋さんからもご案内がありました通り、ジョイフルでは公式の情報としては今年の3月1日の目標分からランドセル1個あたりをお預かりしております。1,800円の寄付金額を2,500円に変更をさせて頂くことになりました。私どもは、皆様からお預かりした寄付を国内での管理、そして壊れていたりとか、あまりにも皮がはがれすぎてプレゼントするには、送るにはなかなかクオリティーが担保できないものなんかを弾いたりですとか、そういった検品作業。また船積み専用の段ボールに詰めたいと思いますので、その梱包の作業というところとあと船積み、そして現地でのトラック輸送配布活動に活用をさせて頂いております。やはりアフガニスタン情勢の部分もあるんですけれども、このトラック輸送にかかる燃油代なんかは現地で原油代、物価高の影響がかなり出ておまして、1,800円という金額は2004年の開始当初から据え置きで実施してまいりましたが、やはりドルのレートの方で105円のスタートだったところが、現在140円前後での推移となっておりますので、ちょっとこちらからご支援をお願いしている立場として大変心苦しいですけれども、この情勢に合わせて決行させて頂く運びとなりました。今後のご支援についてご検討いただくにあたり、先ほどの諸橋さんからございました通り、ご計画でしたり予算の部分でも常にご検討いただいている部分ですとか、ご支援可能な範囲というのがあると思いますので、6月28日までに国内の倉庫の方にご送付いただければ、ランドセルに関しては1,800円で承るという意向期間を設定しております。皆様のご方針ご検討で、今回から2,500円でご対応ができるのか、1,800円でご対応いただけるのか含め、是非ご支援ご検討いただければと思っております。このような事情はありつつも、アフガニスタンのニーズ高いのは変わっておりません。毎年7万人の新入生がいると言われておりますが、私どもは年間で配布できるのは2万個にも満たっておりません。1万7000個前後となっております。まだまだニーズが高い状況でございますので、皆様のできる範囲でのお気持ちで構いませんので、ぜひ継続のご支援をご検討いただけますと大変ありがたいです。はい最後急ぎ足になりましたが、私からの説明以上でございます。ありがとうございます。

## ■質問

Q：ランドセル以外の寄付事業は何をやっていますでしょうか。

A：はいありがとうございます。ランドセル以外の寄付事業といたしましては、そごう西武様を通じて中古のこども靴の寄贈をアフリカ向けに実施しております。あと、UNIQLOさんを通じて救援衣料お洋服をアフリカ向けに輸送しております。時々、アフガニスタンの方にもニーズに合わせて、靴と洋服輸送している状況でございます。

Q：活動資金源というのはどこからでしょうか。

A：資金源は主にやはり皆様からのご寄付で賄われております。多くは、企業様からのご支援だったり、個人の皆様からのご支援でやっておりまして、他ODAなんかでJICAですとか、NGO関係のそういったファンドがある時には、案件ベースで事業をやらせていただいたりですとか、あと製薬会社さん中心に一つのプロジェクトを丸ごとお願いしていただく形でまとまった大きなご支援をいただくことがあるんですけれども、そういった形で事業を行っておりますので、やはりご支援いただく企業様個人の皆様がメインで活動しております。

## ○国際奉仕委員会

諸橋和典委員長

先ほどちょっと教科書の写真が出ていましたけれども、こちらの白河地域の中学校の英語の教科書で「School backpacks travel overseas」ということで、ランドセルが海を渡って旅行するというか、そういうような題名で英語の教科書になっておりますので、非常に子供達に興味深い話になっていきます。今日のお話を聞いて、これからどういうふうにしていくか、さらに検討を深めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。以上で国際奉仕委員会の卓話は終わらせていただきます。今日はどうもありがとうございました。ジョイフルさんありがとうございました。それと追加でIT委員会なんですけれども、今回、こういう形で初めてズームを使ってやりましたけれども、比較的スムーズにいったなというところで、こういったことも希望があればできるだけやりたいと思っておりますので、こういった形で卓話をやりたいという方がいれば、相談いただければなと思っております。